

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194200085		
法人名	株式会社 育成		
事業所名	グループホーム育成会 まごころ 1階		
所在地	野付郡別海町別海川上町20番地11		
自己評価作成日	平成24年1月7日	評価結果市町村受理日	平成24年3月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0194200085&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0194200085&amp;SCD=320</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成24年1月25日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

尊厳やその人らしい暮らしを保障する事を基本理念とし、ぬくもりや安らぎ、思いやりを重視し家族の心で自立を支えることをケア理念としています。基本理念・ケア理念を柱としての運営理念では地域住民との交流を持つことにも触れており、町のボランティア(サンキューの会・コーラス・フラダンス等)の皆様の定期的な発表の場として使って頂いています。施設玄関を入ると「カフェえがお」があり地域住民の皆様やご家族様、利用者様がお茶やコーヒーを楽しみながら交流をもてる場になっています。春から秋にかけてはハウスを作り、入居者様と野菜作りの楽しみや、収穫の喜びを感じています。地域の皆様を支え、また支えられる関係を構築していくことを目指して取り組んでいます。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は別海町中心街に面する新興住宅団地の一角にあり、近くに小・中学校、高校がある。事業所1階の廊下を挟み小規模多機能型居宅介護施設「育成会のえがお」がある。開設前に老人クラブや地域住民に説明会を開催し理解を得、家族や知人・ボランティア(フラダンス、コーラス、三味線、紙芝居など)の訪問が多く、「利用者が穏やかで楽しく、ぬくもりや安らぎを感じ、家庭的な環境を享受し、地域と共に暮らせる」という理念の下に支援をしている。利用者は配膳や後片付け、お掃除など自主的に行ない、仲良く各自の個室へ訪問し合い、明るく笑顔が絶えない。協力医療機関と密接に関わり、往診によりインフルエンザワクチンや肺炎球菌ワクチンの接種を行ない、また屋外にパトライトとサイレンを設置し、災害時には付近住民に知らせる協力を得られる体制となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送りの際に理念の唱和を行い職員一人ひとりが確認し実践に繋げています。新人オリエンテーションでは、理念の重要性について説明を行っています。	設立時の職員研修において基本理念やケア理念を確認・共有し、日々利用者の支援に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており回覧板により町内の情報を共有しています。ボランティアの皆さんは定期的に来設され交流をもち、ホーム主催の行事へのお誘いもしています。町から週2回牛乳配給があります。	設立前に地域説明会を開催し理解を得、多くのボランティア(フラダンス、コーラスなど)の協力がある。利用者は地域の行事(別海霊大祭)に参加し、事業所の一周年祭等に地域住民の参加を呼びかけ交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	魚業協同組合や農業協同組合の婦人部の会合に参加させて頂き、認知症の人の理解についてお話させて頂いたり質問にお答えしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年6回開催し入居者様の状況説明を行い、意見を求めサービス向上に活かせるように取り組んでいます。	併設する事業所と合同で2ヶ月に1回運営会議を開催し、事業所の運営や利用者の状況等を報告して助言を得、ミーティングで改善に努めている。家族会の代表も会議に出席して意見や要望を伝えている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の担当者と日頃から連絡を取り合っています。困難事例については相談を行っています。	管理者は常に町の担当課や地域包括支援センターに出向いて、介護情報、利用者の状況等の報告や相談をして助言を得て連携を深めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修会参加により、正しく理解し拘束しないケアに取り組んでいます。研修に参加できなかった職員については研修資料に目を通してもらい印を押してもらうことで、内容を理解出来たことの確認を行っています。	職員は町内の介護支援専門員会議やグループホーム協議会主催の身体拘束等の研修会に参加している。事業所研修マニュアルに基づいて職員研修を行い実践に努めている。玄関は防犯上夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修会参加により、正しく学ぶことができています。虐待が見過ごされていないか、自ら行っていないかを確認し注意しながら防止に努めています。		

グループホーム育成会まごころ1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について、町主催の研修会に出席し学ぶ機会はあるが、必要とする入居者様は現在はいないため活用に至っていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には施設内の見学をして頂き、契約時には読み上げ説明を行い、不明な点等の質問を受け、納得して頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族からの要望は管理者、ケアマネ、リーダーがお話を聞き、話し合いを行い運営に反映できるように努めています。玄関カウンターに御意見箱を設置しています。	家族会の代表が運営推進会議に出席し希望や意見を伝えている。家族の来訪時に意見や要望の話しやすい雰囲気づくりに努め、出された意見・要望をミーティングで話し合い改善に努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや定期的な総合施設長との面談で意見や提案を聞く機会が設けられており、反映されています。	月1回のミーティングで話しやすい雰囲気作りをし、意見や提案を受けて話し合い、3ヶ月に1回の個人面談では意見・要望を引き出すよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の経験や実績に応じてキャリアパスを設けており、向上心をもって働けるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	シフト調整を行い、希望者や受講必要者が多数研修参加が出来るようにしています。研修終了後にはレポートを提出してもらうことで、研修内容の復習を行い理解を深め実践しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	懇親会や研修会に参加することで他事業所の職員との交流を持つことができ、「気づき」や「違い」を知り、結果サービスの質の向上につながる事が出来ています。		

グループホーム育成会まごころ1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用相談の際、まずは、御本人、ご家族からのお話を聞き、担当の介護支援専門員からの情報提供も頂きます。利用者様の不安が解消されるために 困っていることを明確にし相談を重ねています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用相談の際、ご家族からのお話を聞き、担当の介護支援専門員からの情報提供も頂きます。家族が認知症であることでの色々な思いを受け止め、安心して頂けるように施設の詳しい説明を行っています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずはグループホームでの生活に慣れて頂く事が御本人、ご家族にとっての安心につながり、必要とされている支援がスムーズに行われるようにしています。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩で有るという事を常に忘れず、日常生活で出来る事を把握し御本人が出来る事は積極的に行って頂いています。御本人からいたわりや労いの言葉を頂き和やかな生活が送れています。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎日の生活の出来事や気付き等の情報を御家族に報告し、御本人の状況を知って頂く事で御家族と思いを一緒にしています。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所に住まれていた方や、同じサークルの方の訪問は積極的に受け入れています。	馴染みの理美容室に行ったり、サークル仲間が誘いに来るなど、多くの友人が訪問している。職員も馴染みの関係継続に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	心身の状態や気分が、日や時により変化するので注意深く見守りを行い職員が間に入るなどして交流が持てるようにしています。リビングでお茶を飲んだり、レクに参加して頂けるように声かけを行っています。			

グループホーム育成会まごころ1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院後亡くなられた方の弔問に出かけ、お元氣だった頃の話をしてご家族と息を一緒にしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人の言葉・表情・行動の見守りを職員全員が行い、声かけて意向の確認、話し合いを行い把握に努めています。困難な場合は家族の確認を行っています。	利用者一人ひとりに担当職員を置き、日ごろから関わりを密接にし信頼を得ており、話しやすい環境の中で思いや意向を把握して実践に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人やご家族からの聴き取りや、会話の中からもこれまでの暮らしの把握を行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	勤務開始前には個人記録に目を通し体調や行動の変化を確認しています。利用者様と関わることで小さな変化を見落とすことがないようにし、変化があれば記録し職員間での情報交換を行い現状の把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	意向の確認は御本人には日頃の会話から、ご家族には来設時にお聞きして、毎月モニタリングを行い、必要に応じてカンファレンスを行い、現状に即した介護計画を作成できるように努めています。	日々の体調や生活状況を記録し、毎月のミーティングで報告し、介護計画は3ヶ月又は6ヶ月に1回見直している。体調に変化があれば、直ちに介護支援専門員と相談して介護計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護支援経過を記録する個人別ファイルがあり、職員間で情報を共有しています。発語や出来なかった事が出来た事等を記録し介護計画に活かせるように努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の状況に合わせ、職員が受診対応の支援をしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎月地域のボランティアの皆さんが来設され、作品作りや踊り、歌等を楽しむことができます。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人や御家族の希望する医療機関を選択しています。定期受診や緊急受診の他、ご家族の希望で訪問診療も行っています。協力医療機関と話し合いを持ち、施設でのインフルエンザ・肺炎球菌ワクチンの予防接種も行われました。	利用者のかかりつけ医の受診を支援している。通院送迎は家族対応であるが、依頼があれば職員が付き添う。協力医療機関の往診があり、インフルエンザや肺炎球菌ワクチンの予防接種を実施している。	

グループホーム育成会まごころ1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期受診や訪問診療時には日常生活状況報告書の作成を行っています。体調変化時には、協力医療機関の看護師に電話での指示を頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーを作成し提出を行います。病状については御家族様と連絡を取りながら退院に向けて準備を行います。退院時には看護サマリーを頂き注意すべき点の確認を行います。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナル研修に参加し終末期のあり方について学んでいます。参加できなかった職員は研修資料に目を通して頂いています。重度化した場合や終末期のあり方については家族と話し合いが行われなかったが、緊急時の対応について確認と承諾を頂き支援しました。	グループホーム協議会の重度化や終末期の研修に参加している。事業所は終末期における医療連携体制がなく、重度化や終末期について、利用者や家族との話し合いはないが、緊急時の対応については事前に家族と話し合い確認を得ており、協力医療機関と連携し対応している。	重度化や終末期に、事業所、家族、関係機関のあり方、施設・病院紹介などに関しても指針を整備し、入所時には指針に基づいて説明し、その都度方針を共有できる体制を構築されるよう期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時対応について研修を行い、急変時や事故発生対応マニュアルは各フロアのすぐに見えるところに備え付けています。全員が実践力が身に付いているとは言えない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時における避難訓練を実施し地域の消防署と連携を取りながら災害時、避難できるようにしています。近隣の協力体制は運営推進会議を通じてお願いしています。	自動火災報知機・スプリンクラー・非常通報装置・誘導灯・消火器を設置。非難訓練は地域住民も参加して年4回実施し、消防署や消防団の指導を受け、訓練時には消火器による消化訓練も行っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩で有ることを念頭に置きながら、誇りやプライバシーを損ねない言葉や対応を考えながら対応しています。	設立時に利用者の尊厳と個人情報の取り扱いについて研修をし、特に言葉遣いについては日常的に指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話から御本人の思いや希望を察するようにし、いくつかの選択肢を提示し自己決定出来るような声かけを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝、食事等の声掛けは行いが強制はしていません。一人ひとりのペースや希望にそった過ごし方ができるように心掛けて支援をしていますが全員には出来ていません。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えは御本人に選んで頂いています。ボランティアや出張美容室を希望され利用されています。		

グループホーム育成会まごころ1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べられない物、嫌いな物を把握して食事の準備を行います。声かけを行い楽しく食事が出来るようにしています。食後、食器を重ねることだけでも行って頂いています。	献立は、利用者の希望を参考に職員が作成し、調理は、平日の昼食と夕食は料理専門職員が行い、利用者の体調に合わせて刻み食もある。利用者は職員と共に食事し、会話しながら楽しい食事となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事摂取量はチェック表に記録し1日の摂取量の把握を行い、体調や状況に合わせて食事形態や量を考えます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛け、見守りで歯磨きをして頂き磨き残しは職員が介助しています。舌磨きも行い口腔内の清潔に努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し記録することで、一人ひとりの排泄リズムを把握しています。時間をみて誘導を行いトイレでの排泄が出来るように支援しています。	職員は排泄チェック表により、利用者の排泄リズムを把握して、トイレ誘導を行っている。日中や夜間は、リハパンや布パンに替えており、排泄の自立に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘のため食欲不振や不穏が起こることを理解し、排泄チェック表で排便の確認を行っています。水分摂取を促したり、運動を行ったりし自然排便が出来るように支援しています。町から配給になる牛乳を飲んで頂いています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴希望の日や時間を聞いて入浴して頂いています。好みの温度にする、入浴剤を使用する等して個々にそった支援に努めています。	一週に2回の入浴確保に努め、嫌がる者には適切な誘導により、時間や好みの温度、入浴剤、通院前日の入浴など希望に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調をみながら声かけを行い、日中は活動的に過ごして頂き夜間の睡眠がしっかりとれるように支援しています。眠れない時はホットミルクを飲んで頂いたり傾聴して安眠できるようにしています。日中、疲れや体調をみて居室で休息を取って頂くこともあります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表を活用し間違いなく服薬出来るようにしています。処方箋をファイルしており薬の変更があった時は細かく記録し全職員が把握できるようにし、症状の変化の見守りを行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯物たたみ等出来る入居者様には声かけで行って頂き役割を持つことが出来る。嗜好品や楽しみごとの把握を行い気分転換が出来るように努めています。		

グループホーム育成会まごころ1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員の勤務状況等で当日の外出に対応できないこともあるが、出来る限り散歩や、公園などに出かけられるように支援しています。お花見や紅葉見学などの遠出も行っているが、地域の人々の協力を得るには至っていません。	買い物や、付近の公園まで散歩するなど外出の機会をつくったり、花見や紅葉狩りなどに出かけドライブを楽しんでいる。冬季は転倒の危険があり散歩は控えている。	霊大祭や収穫祭など地域の行事に参加する計画があるが、地域住民やボランティアの力を借りるなどして、利用者がより積極的に外出の機会が得られるように期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は事務所内金庫にお預かりしていますが、希望があれば所持し使えるように支援しています。居室内に現金を所持したい入居者様には家族と相談をして紛失防止のためクローゼット内の鍵がかかる引き出しに保管して頂くようにお話をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書く習慣のある入居者様はいつでも出せるように葉書や切手を購入しています。御本人の希望に応じて家族に電話が出来るように支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	茶碗を洗う音、ご飯が炊ける匂い、心地良い音楽など五感を刺激して、季節感を意識的に取り入れる工夫をしています。トイレの場所がわかるように張紙などの工夫を行っています。	対面キッチンに面する共用の居間兼食堂に、窓からほど良い光が差し込んで明るく、壁には職員との合作である作品が飾られている。利用者は応接セットに腰掛けて話しをし、ゆったりと過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各自が思い思いに過ごす事が出来ていて、一人で過ごされたい時は、居室で過ごされています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人が使いやすいよう配置に気を配り、使い慣れた日用品を持参して頂き、写真やぬいぐるみ等を置き、居心地良く過ごせるように工夫を行っています。	居室に好みのベットや布団があり、壁には家族の写真や作品を飾り、仏壇などを持ち込み、それぞれの生活を楽しんでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレのドアは引き戸と開き戸があり入居者様の状況により使用して頂いています。脱衣所の棚は手すりとして使え、建物内はバリアフリーで柱は角をなくし安全に生活を送れるように工夫されています。台所のカウンターは高いため入居者様が利用する事があれば見守りを行っています。		